

テーマ：消費者物価（全国10月、東京都区部11月） 発表日：2010年11月26日（金）
 ～下落幅縮小も、たばこ傷害保険料の影響大。デフレ傾向に変化無し～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	移動電話通信料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
09	1月	0.0	0.0	▲ 0.2	▲ 23.4	0.8	0.5	0.5	▲ 0.3	▲ 28.3	0.8
	2月	▲ 0.1	0.0	▲ 0.1	▲ 21.5	0.8	0.5	0.6	▲ 0.1	▲ 24.6	0.8
	3月	▲ 0.3	▲ 0.1	▲ 0.3	▲ 21.8	0.8	0.2	0.4	▲ 0.4	▲ 25.0	0.8
	4月	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 13.2	0.8	▲ 0.1	0.0	▲ 0.6	▲ 12.8	0.8
	5月	▲ 1.1	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 22.6	0.2	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.9	▲ 25.9	0.2
	6月	▲ 1.8	▲ 1.7	▲ 0.7	▲ 26.3	▲ 0.6	▲ 1.5	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 28.8	▲ 0.6
	7月	▲ 2.2	▲ 2.2	▲ 0.9	▲ 27.9	▲ 0.6	▲ 1.8	▲ 1.7	▲ 1.1	▲ 30.0	▲ 0.6
	8月	▲ 2.2	▲ 2.4	▲ 0.9	▲ 29.1	▲ 1.9	▲ 1.7	▲ 1.9	▲ 1.1	▲ 30.1	▲ 1.9
	9月	▲ 2.2	▲ 2.3	▲ 1.0	▲ 24.5	▲ 1.9	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 1.4	▲ 25.1	▲ 1.9
	10月	▲ 2.5	▲ 2.2	▲ 1.1	▲ 19.8	▲ 1.9	▲ 2.4	▲ 2.2	▲ 1.4	▲ 20.0	▲ 1.9
	11月	▲ 1.9	▲ 1.7	▲ 1.0	▲ 8.4	▲ 1.9	▲ 2.2	▲ 1.9	▲ 1.3	▲ 6.3	▲ 1.9
	12月	▲ 1.7	▲ 1.3	▲ 1.2	2.6	▲ 1.9	▲ 2.2	▲ 1.9	▲ 1.5	4.7	▲ 1.9
10	1月	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 1.2	10.9	▲ 1.9	▲ 2.1	▲ 2.0	▲ 1.4	14.2	▲ 1.9
	2月	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.1	11.5	▲ 1.9	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 1.3	12.7	▲ 1.9
	3月	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.1	12.0	▲ 1.9	▲ 1.7	▲ 1.8	▲ 1.2	14.2	▲ 1.9
	4月	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 1.6	13.2	▲ 1.9	▲ 1.5	▲ 1.9	▲ 1.4	13.1	▲ 1.9
	5月	▲ 0.9	▲ 1.2	▲ 1.6	15.7	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 1.5	▲ 1.4	16.5	▲ 1.3
	6月	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 1.5	12.3	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 1.4	11.8	▲ 1.3
	7月	▲ 0.9	▲ 1.1	▲ 1.5	7.8	▲ 1.3	▲ 1.2	▲ 1.3	▲ 1.4	5.9	▲ 1.3
	8月	▲ 0.9	▲ 1.0	▲ 1.5	7.0	0.0	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 1.4	4.4	0.0
	9月	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 1.5	4.0	0.0	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 1.3	1.7	0.0
	10月	0.2	▲ 0.6	▲ 0.8	4.0	0.0	0.3	▲ 0.5	▲ 0.6	3.7	0.0
	11月	—	—	—	—	—	0.2	▲ 0.5	▲ 0.6	4.1	0.0

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ 下落幅は縮小するも、たばこ傷害保険料の影響大

総務省より発表された2010年10月の全国消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比▲0.6%となった(事前予想：▲0.5%、レンジ：▲0.7%～▲0.4%)。前月の同▲1.1%から下落幅が大きく縮小しているが、これは、10月からのたばこ値上げで0.27%ポイント、傷害保険料の値上げで0.14%ポイント押し上げられたことによってかなりの部分が説明可能であり、デフレ基調に大きな変化はみられていないと判断される。08年度後半の景気の落ち込みがあまりに大きかったことから依然として大きな需給ギャップが残存しており、需給バランスの崩れに由来する物価下落圧力は依然として根強い。

なお、CPIの構成品目(生鮮食品除く)のうち前年比で下落している品目数の割合は62.0%となり、前月(62.4%)から若干縮小した。そのほか、CPI総合指数は前年比+0.2%と08年12月以来のプラスに転じた。猛暑の影響で生鮮野菜や果物が急騰した影響が出ている。野菜は生活必需品と考える人が多いため、家計の実質購買力低下を通じて、個人消費にマイナスの影響が出ることが懸念される。

○ 東京都区部は前月と変わらず

11月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.5%と、前月（同▲0.5%）から変わらず、事前予想（▲0.5%）と一致した。10月には、たばこや傷害保険料の値上げによって下落幅が大きく縮小していたが、今月は足踏みとなっている。品目別では、持家の帰属家賃（木造中住宅）などがプラス寄与を小幅拡大したものの、電気代や外国パック旅行などがプラス寄与を縮小させている。また、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）も前年比▲0.6%と、前月（▲0.6%）から変化がなかった。10月は、たばこや傷害保険料といった要因を除いても若干の改善がみられたが、今月はそうした動きはみられない。後述の通り、物価を取り巻く環境が依然厳しいことも踏まえると、10月の動きは一時的なものに過ぎなかった可能性が高いと思われる。なお、季節調整値でみると、コア、米国型コアとも前月比横ばいにとどまった。

○ 2011年度のプラス転化は難しい

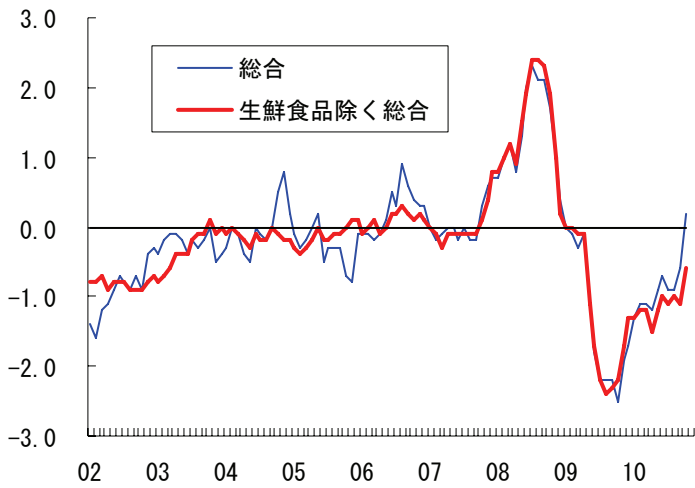
東京都区部の動向から11月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く総合）を試算すると、前年比▲0.6%となる。10月と同じ下落幅であり、デフレ基調に変化がないことを示す結果になると予想される。先行きについても、この先景気減速が明確化し、需給ギャップの改善が止まることに加え、円高による輸入物価の下落も物価押し下げ要因になる。日本銀行は展望レポートで、2011年度の消費者物価を+0.1%と予想しているが、現状を見る限り、2011年度中にCPIがプラス転化するのには難しいのではないだろうか。

○ 基準改定では▲0.5%ポイント程度下方改定か

一点注意したいのが、2011年夏に実施されるCPIの基準改定（2005年基準から2010年基準へ）である。基準改定が消費者物価の伸び率に影響を与える要因には、大きく分けて①品目の追加及び整理統合、②ウェイトの変化、③品目の指数水準リセット、④モデル式の変更の4つがあり、これらはどれもCPIの下方改定に繋がる要因になることが多い。次回の基準改定ではCPIは▲0.5%ポイント程度下方改定される可能性が高いと筆者は予想している（詳しくは、2010年11月25日発行のEconomic Trends「消費者物価指数基準改定の影響」をご参照ください）。なお、前々回の改定（95年基準→2000年基準）では▲0.26%ポイント、前回の改定（2000年基準→2005年基準）では▲0.50%ポイントの下方改定となっている。この基準改定の影響を考慮すると、2011年度のCPIプラス転化はますます難しくなる。

物価の基調を判断する上では高校授業料無償化やたばこ税引き上げなどの政策要因を除いて考えることが望ましく、この要因による物価変動が金融政策に影響を与えることはないと思われるが、基準改定によるCPI下方修正についてはこの限りではない。基準改定とは、時間の経過により累積した指数の歪みを5年に一度是正するものである。そのため、基準改定後の数値の方がより経済実態を反映していると考えられる。基準改定にからんで、日本銀行への金融緩和圧力が一層強まる可能性は否定できないだろう。

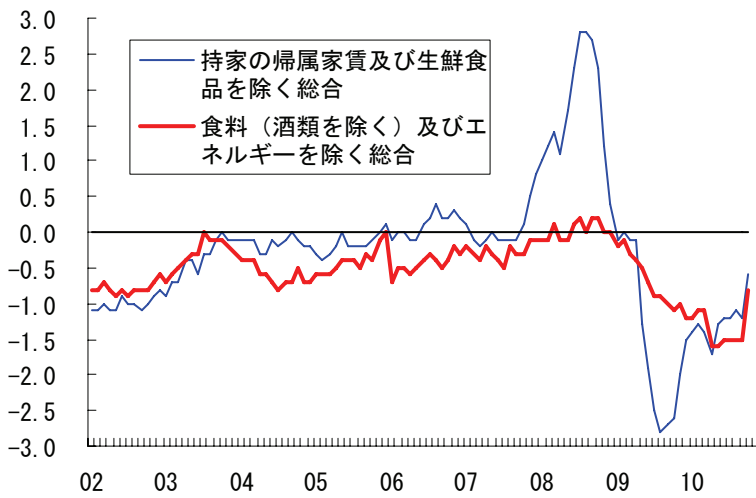
全国消費者物価指数（前年比、%）



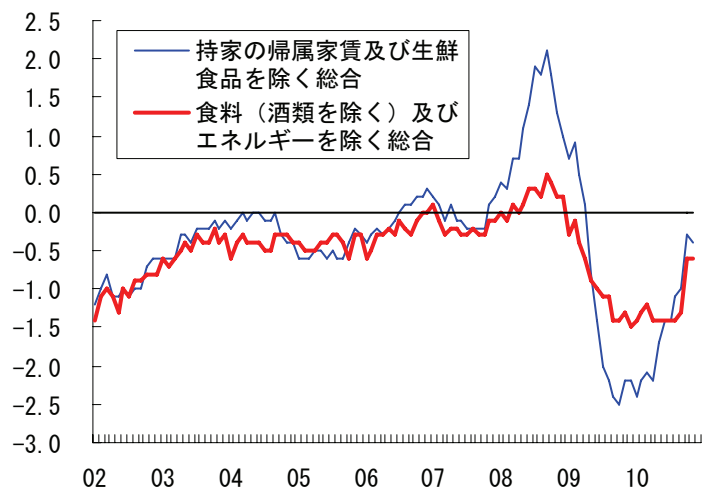
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



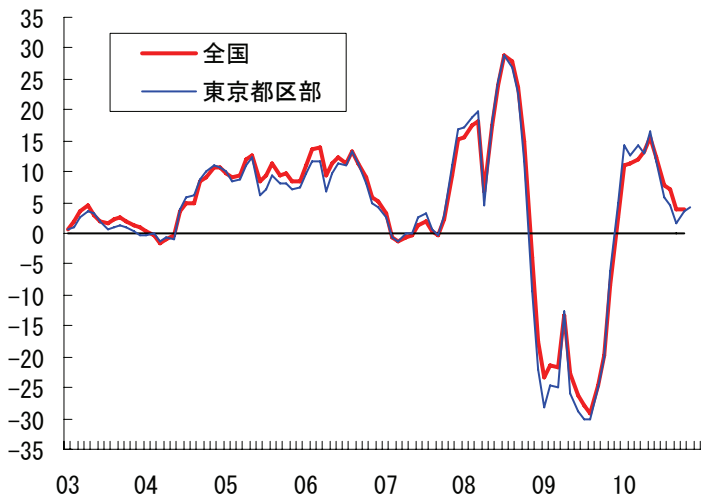
全国消費者物価指数（前年比、%）



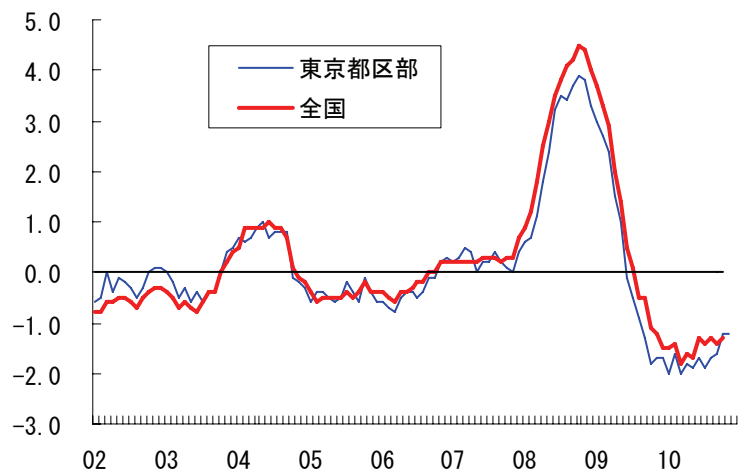
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



石油製品（前年比、%）



生鮮食品を除く食料（前年比、%）



（出所）総務省「消費者物価指数」